

新潟市の環境の状況について

平成29年2月7日
新潟市環境審議会

第3次 新潟市環境基本計画について

2

1 計画の概要

新潟市環境基本条例第9条に基づく環境行政のマスタートプラン

■これまでの経過

平成10年 新潟市環境基本計画策定（計画期間：H10～18年度）

平成19年 第2次環境基本計画策定（計画期間：H19～26年度）

平成27年4月 第3次環境基本計画策定

■計画期間 平成27年度から平成34年度まで（8年間）

■計画の位置づけ

新潟市総合計画（にいがた未来ビジョン）

目指す都市像のうちの1つ

「田園と都市が織りなす、環境健康都市」

取り組む政策：地域資源を活かすまち
人と環境にやさしいにぎわうまち

環境基本計画は、この都市像の実現に向け環境政策面から推進するもの

第3次 新潟市環境基本計画について

3

2 施策の柱と関連計画

低炭素社会の創造

- ・地球温暖化対策実行計画
- ・スマートエネルギー推進計画



循環型社会の創造

- ・一般廃棄物処理基本計画



生物多様性の保全

- ・にいがた命のつながりプラン
ー生物多様性地域計画ー



快適な生活環境の創造



環境教育と協働の推進



環境教育と協働の推進【環境企画係】

4

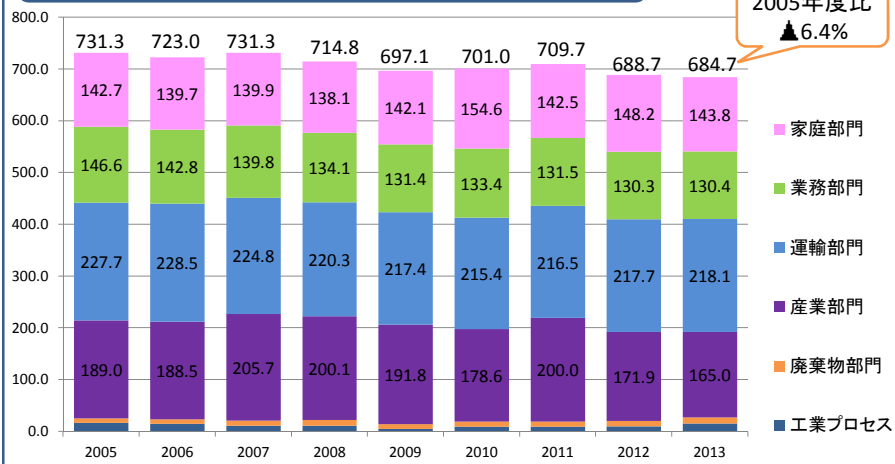
環境教育実践協力校事業

- 目的 学校における環境教育の推進
- 内容 モデル性のある環境学習を実施する学校を「環境教育実践協力校」に指定し、その活動に係る経費について支援
活動内容を環境教育副読本に掲載し、市内全学校へ配付
- 平成27年度までの実績
平成5年度から環境教育実践協力校を指定し、支援を実施
平成27年度までの22年間で累計86校を指定
- 平成28年度の展開
 - 名称を「ESD環境学習モデル支援校」に改め、基本計画に基づくESD及び環境学習に対象を拡大
 - 持続可能な発展に向けて行動する人材の育成を図る
 - ESDの概念に関する
教諭向けの講義を実施

※ESD : Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)



新潟市域のCO₂排出量の推移（～2013）



○家庭部門：基準年より増加，世帯当たり4.4t（全国平均3.7t）

○運輸部門：最も割合が高い（31.9%），人口一人あたり2.7t（全国平均1.8t）

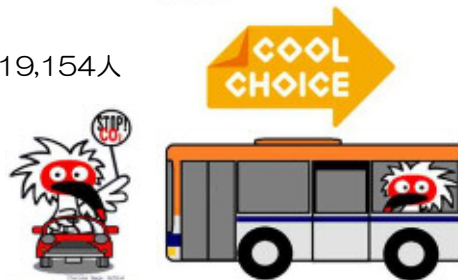
家庭の省エネ取組支援講座

- 目的 本市の課題の一つである家庭からのCO₂排出量の削減
- 内容 身近な省エネを実践してもらうための講座を実施
 - 自治会，町内会などの会合に講師を派遣
 - 新潟県地球温暖化防止活動推進員，環境リーダーから募集
市の研修を受講後に講師として登録して派遣
 - 平成26年度に地球温暖化対策地域推進協議会で
作成したパンフレットを活用
- 平成27年度の実績
 - 全19回開催
 - 延参加者数：580人
 - CO₂削減量：19t-CO₂
（参加者アンケートの回答から推計）
- 平成28年度の展開
 - 学校も含めて受講団体を募集
 - IPCCリポートコミュニケーター
資格保有者を活用



(H28年度新規) エコモビ推進運動

- 目的 本市の課題の一つである運輸部門からのCO₂排出量の削減
- 内容 公共交通への転換やエコドライブなど環境に配慮した移動を推進
 - 11月を運動月間とし、9月より参加事業所・団体を募集
 - 実践ガイドブック、ポスター、ステッカーを配付して情報を周知
 - 事業所従業員などへのエコドライブ研修を実施
 - COOL CHOICEに市として賛同し併せて広報
 - 実施状況アンケートの結果から優良事業所を表彰
- 平成28年度の実績
 - 参加状況：41団体/従業員数19,154人
 - CO₂削減量：1,724t-CO₂
(参加従業員数から推計)
- 平成29年度の予定
 - 実施期間を前倒し、延長
 - 参加登録を市民にも拡大



1 田園資源活用推進事業概要

- 目的 本市の代表的なバイオマス資源「もみ殻」の有効活用により資源の地産地消と持続可能な低炭素型まちづくりを推進する。
- 事業
 - ①もみ殻燃料モニター事業
 - 農業分野でもみ殻の有効活用を促進
 - ビニールハウスでの燃料活用を想定（小規模活用に位置付け）
 - ②先行自治体との連携による取り組み
 - 先行する富山県射水市との連携により、もみ殻の活用を促進
 - ライスセンターでの活用（中規模活用）
 - カントリーエレベーターでの活用（大規模活用）を想定
- 予算額 5,000千円（H28）



ビニールハウス



ライスセンター



カントリーエレベーター

2 事業内容①

① もみ殻燃料 モニター事業



- 目的 農業分野における、もみ殻の有効活用の促進
 - 灯油などの代替燃料使用によるCO₂排出量の削減
 - もみ殻焼却灰の有効活用による資源の地域内循環
- 対象 南区の園芸農家（農業法人）
- 期間 平成29年2月上旬～3月中旬に暖房予定
- 内容
 - チューリップ（切り花）のハウス栽培
 - 実績のある“もみ殻ボイラー”を使用（温水暖房）
 - 農家などを対象とした見学会を開催
 - 焼却灰の分析、活用先の検討

3 事業内容②

② 先行自治体との連携による取り組み

- 目的 もみ殻の有効活用に先行して取り組んでいる富山県射水市との連携によるノウハウの共有
- 内容
 - 「もみ殻の有効活用推進のための連携協定」締結
 - ・締結式 平成28年4月13日（東京都）両市長出席
 - ・協力事項 もみ殻の有効活用に関する研究・実証、情報交換、成果の周知・公表、関係者の交流 ほか
 - 連携協定に基づく関係者の情報・意見交換会
 - ・第1回 平成28年7月12日（射水市） 21名参加
 - ・第2回 平成28年12月2日（新潟市） 22名参加



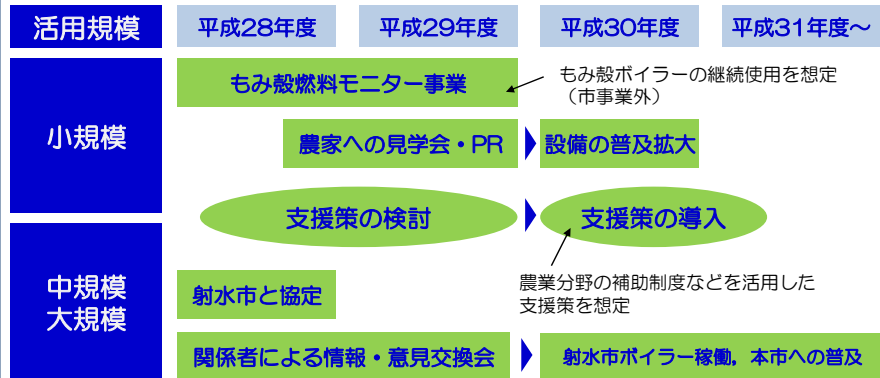
情報・意見交換会

参加者

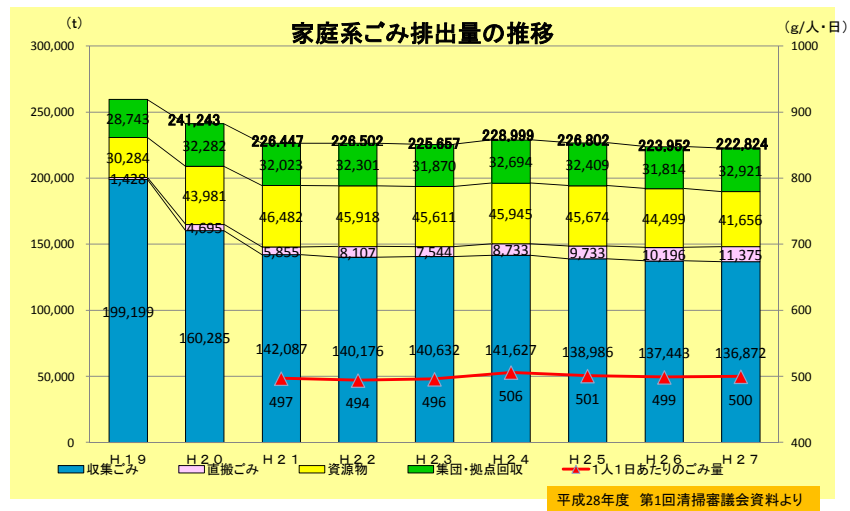
新潟市環境政策課、射水市農林水産課
市内JA及び農業法人、ボイラー等関連企業、
射水市もみ殻循環プロジェクトメンバー ほか

4 全体スケジュール（想定）

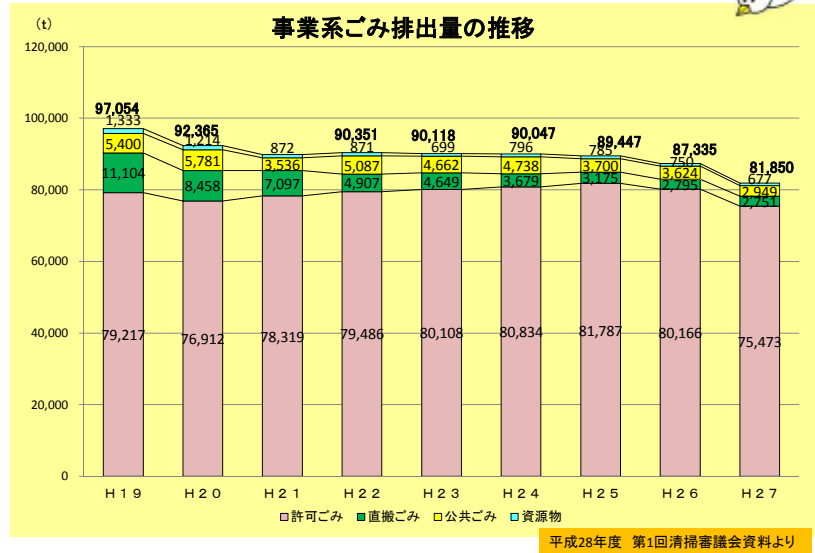
平成31年度以降までの事業を，活用規模ごとに下記の通り想定する。
（小規模…ビニールハウス，中規模…ライスセンター，大規模…カントリーエレベーター）



ごみ量の推移（1）



ごみ量の推移（2）



平成28年度 新たな取組み

①にいがた未来ポイントとの連携

平成28年6月から連携事業を追加
 ・段ボールコンポスト及び基材の購入
 ・地域における生ごみ堆肥化事業



④水銀含有製品の臨時回収

平成28年10月
 市内11カ所で店頭回収実施
 平成28年11月から平成29年1月まで
 窓口回収を実施
 ・市内の薬局
 ・区役所、出張所



②段ボールコンポストの普及促進

平成28年6月から
 ○販売箇所を2カ所増設
 ・資源再生センター（エコプラザ）
 ・江南区農産物直売所大地
 ○基材のみの販売開始
 ・継続利用者への対応



⑤使用済小型家電の臨時回収

平成28年10月
 リサイクル推進月間の取組みとして市内
 11カ所で店頭回収を実施

③学校給食残さの利用促進

飼料化対象校の拡大
 ・36校→41校



⑥焼却施設の中継施設化

平成28年3月
 新津クリーンセンターの焼却施設の運
 転を停止
 直接搬入ごみの中継施設化

1 市の鳥ハクチョウ活用事業 (1) にいがた市民ハクチョウ調査

【目的】

平成26年10月に新潟市の鳥「ハクチョウ」を制定し、ハクチョウを通して市民に本市の自然環境の豊かさを感じてもらい、関心を持ってもらうために実施

【事業概要】

- 調査期間 平成28年10月から平成29年2月28日まで
- 対象種 市内で見られるハクチョウ
(コハクチョウ, オオハクチョウ)
- 対象地域 新潟市内全域
- 参加方法 ・撮影したハクチョウの写真をメール等で送付
・目撃情報, エピソード等をはがき, FAXなどで送付
- 調査結果 報告内容を取りまとめ, 平成29年度に新潟市の鳥ハクチョウガイドブックを作成・配布予定

※参考

- ・平成26年度は, 小学生を対象に「子どもハクチョウ調査」を実施
- ・平成27年度は, 市民ハクチョウ調査を実施し, 報告書を作成・配布



1 市の鳥ハクチョウ活用事業 (2) ハクチョウと潟エコツアーの開催

【目的】

新潟市の鳥「ハクチョウ」がどのような場所で見られるかを親子で観察し、ハクチョウの生活に関わりの深い里潟の役割や, 本市の自然環境の豊かさを知ってもらう

【事業概要】

- 開催日 平成28年12月18日(日) 午前9時～午後1時
- 行き先 中央区鳥屋野潟, 西区佐潟
- 講師 ♪鳥くん(プロバードウォッチャー)
大熊孝氏(新潟市潟環境研究所所長)
- 参加者 31名
- 参加者の声

- ・ ぼくは, このツアーに参加して鳥の生態について学びました。今後, このようなツアーがまたあるといいなと思います。♪鳥くんのお話がとても役に立ち楽しかったです♪
- ・ とても楽しかったです。知らない話もいろいろ聞けて良かったです。子どもはハクチョウのほかにカワセミがとてもきれいだったと言っています。
- ・ ♪鳥くんのプロの観察眼にびっくりしました。



2 佐潟20ラムサールフェスの開催

【目的】 佐潟がラムサール条約に登録され20周年を迎えたことを記念して、佐潟に関わる団体と協働で、佐潟や本市の里潟の魅力を発信するイベントを開催

【開催概要】

地元編

- ・開催日 平成28年11月6日(日)
- ・会場 赤塚中学校体育館、佐潟水鳥・湿地センター他
- ・主なイベント内容
 - ①赤塚小・中学校の児童・生徒による取組発表
 - ②今森光彦氏講演会・お話し会
 - ③佐潟の暮らし ～潟の恵みと歴史文化～
 - ④秋の佐潟観察会
- ・来場者 約1,500人



まちなか編

- ・開催日 平成28年11月13日(日)
- ・会場 新潟市民芸術文化会館(りゅーとぴあ)能楽堂
- ・開催内容
 - ①市内の里潟の紹介
 - ②宮城県伊豆沼の取組紹介
 - ③椎名誠氏 基調講演
 - ④パネルディスカッション
- ・来場者 350人



大気環境の体系

平成28年度

大気調査項目	調査地点
環境大気常時監視	<ul style="list-style-type: none"> ・一般環境大気測定局 9地点 ・自動車排出ガス測定局 3地点
移動局自動車排ガス影響調査	<ul style="list-style-type: none"> ・沿道地域（道路に面する地域） 1地点
有害大気汚染物質調査	<ul style="list-style-type: none"> ・一般環境大気測定局 3地点 ・自動車排出ガス測定局 1地点
アスベスト調査	<ul style="list-style-type: none"> ・一般環境大気測定局 6地点 ・自動車排出ガス測定局 2地点 （各区1地点、計8地点で実施）
酸性雨調査	<ul style="list-style-type: none"> ・一般環境大気測定局及び一般環境地域（道路に面する地域以外の地域） 2地点

大気常時監視測定結果（速報）

平成28年12月31日現在

		二酸化硫黄		二酸化窒素		オキシダント		浮遊粒子状物質		微小粒子状物質	一酸化炭素	
		長期的評価	短期的評価	長期的評価	短期的評価	長期的評価	短期的評価	長期的評価	短期的評価		長期的評価	短期的評価
一般環境大気測定局	豊 栄	—	—	○	×	—	—	—	—	—	—	—
	太 郎 代	○	○	○	×	○	○	○	○	○	—	—
	松 浜	○	○	○	×	○	○	○	○	—	—	—
	大 山	○	○	○	×	○	○	○	○	○	—	—
	山 木 戸	○	○	○	×	○	○	○	○	—	—	—
	亀 田	—	—	○	×	○	○	○	○	○	—	—
	新 津	—	—	○	×	—	—	—	—	○	—	—
	坂 井 輪	—	—	○	×	—	—	—	—	○	—	—
	巻	—	—	○	×	—	—	—	—	H28/10/1から測定開始	—	—
ガス自動車排出測定局	東山の下	—	—	○	—	○	○	○	○	○	○	○
	市役所	—	—	○	×	—	—	—	—	○	—	—
	白 根	—	—	○	×	○	○	○	○	○	○	○

有害大気汚染物質調査結果（速報値）

平成28年12月末現在

	物質名	松浜局 (全国標準 監視地点)	大山局 (全国標準 監視地点)	長嶺局 (地域特設 監視地点)	新津局 (地域特設 監視地点)	環境基準	指針値
環境基準 設定物質	ベンゼン	○(0.55)	○(0.43)	○(0.47)	—	3 μg/m³	—
	トリクロロエチレン	○(0.077)	○(0.080)	—	—	200 μg/m³	—
	テトラクロロエチレン	○(0.085)	○(0.044)	—	—	200 μg/m³	—
	ジクロロメタン	○(0.76)	○(1.0)	—	—	150 μg/m³	—
指定地 設定物質	アクリロニトリル	○(0.0054)	○(0.0058)	—	—	—	2 μg/m³
	塩化ビニルモノマー	○(0.0095)	○(0.0074)	—	—	—	10 μg/m³
	クロロホルム	○(0.15)	○(0.12)	—	—	—	18 μg/m³
	1,2-ジクロロエタン	○(0.22)	○(0.083)	—	—	—	1.6 μg/m³
	水銀及びその化合物	○(1.6)	○(1.6)	—	—	—	40 ngHg/m³
	ニッケル化合物	○(1.7)	○(1.6)	—	○(2.8)	—	25 ngNi/m³
	1,3-ブタジエン	○(0.017)	○(0.017)	○(0.035)	—	—	2.5 μg/m³
	ヒ素及びその化合物	○(0.40)	○(0.50)	—	—	—	6.0ng/m³
	マンガン及びその化合物	○(8.2)	○(6.7)	—	○(9.6)	—	140ng/m³

アスベスト一般環境測定結果

単位:本/L(総繊維数濃度)

番号	区	測定場所	測定結果			全国結果 (H27年度)
			H27年度	H26年度	H25年度	
1	北区	豊栄局	0.081~0.39	0.56~(1.1)	0.13~(1.63)	0.056 ~ 5.5
2	東区	大山局	0.23~0.25	0.56~0.67	0.14~(1.71)	
3	中央区	市役所局	0.10~0.30	0.52~0.82	0.15~(1.33)	
4	江南区	亀田局	0.29~0.57	0.64~0.73	0.20~(1.04)	
5	秋葉区	新津局	0.25~(1.3)	0.28~0.64	0.21~0.59	
6	南区	白根局	0.30~0.80	0.44~0.65	0.45~0.74	
7	西区	坂井輪局	0.33~0.81	0.12~0.52	0.25~0.73	
8	西蒲区	巻局	0.23~0.71	0.15~0.76	0.37~0.64	
結果の範囲			0.081~(1.3)	0.12~(1.1)	0.13~(1.71)	

()については電子顕微鏡による分析の結果、アスベスト繊維数は検出下限値 (0.13) 未満である

PM2.5の測定結果(速報値)

平成28年12月末現在

	1年平均値※ ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	1日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超 えた日数(日)	1時間値の 最高値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	1日平均値 の最高値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	1日平均値※ の98%値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
太郎代	9.5	0	48	29.8	21.0
大山	9.5	0	43	33.5	24.2
亀田	9.7	0	46	31.9	23.7
新津	8.1	0	38	30.4	21.5
坂井輪	8.6	0	36	26.8	20.7
巻	(6.9)	(0)	(22)	(16.2)	(14.3)
東山の下	9.9	0	47	30.3	23.6
市役所	9.8	0	83	29.8	23.3
白根	8.8	0	47	31.4	22.1

※環境基準と比較する値

巻は、有効日数が250日未満のため参考値(平成28年10月1日より測定)

水質調査の体系

調査実施主体	調査地点	
	河川、湖沼及び海域	
新潟市	3 地点	17 地点
	信濃川水域	1 地点
	阿賀野川水域の福島潟	4 地点
	新井郷川	2 地点
	鳥屋野潟	6 地点
	新潟海域甲乙丙	3 地点
	弥彦・米山地先海域	
国土交通省 北陸地方整備局	7 地点	
	信濃川	4 地点
	阿賀野川	2 地点
	関屋分水路	1 地点
新潟県	3 地点	
	新潟海域甲	1 地点
	新潟海域東港	2 地点

調査内容

	河川	湖沼	海域
調査期間	通年	通年	4－10月
調査頻度	月1回	月2回	月1回
調査項目	健康項目(年2回程度)		
	BOD,COD等の生活環境項目(毎回)		
	要監視項目(年2回程度)		—

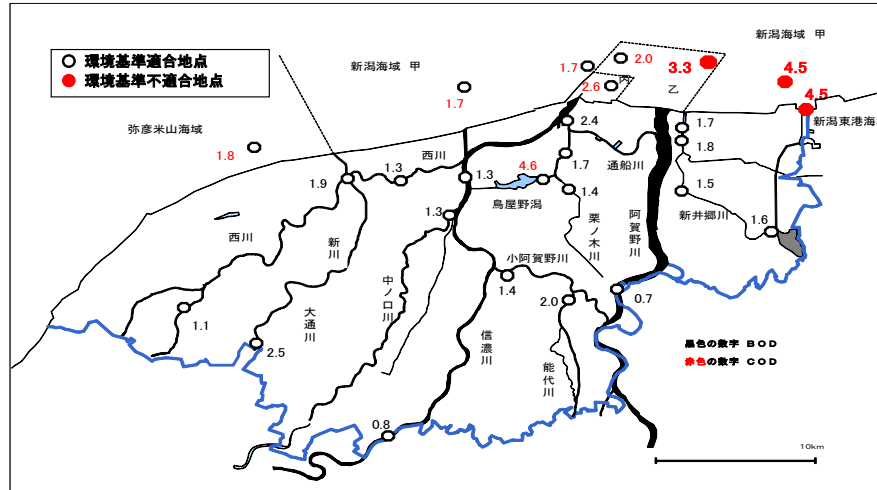
試料採取 委託機関

分析 衛生環境研究所

公共用水域の水質BOD/COD
適合状況（環境基準点）

●新潟海域（甲、乙、東港）でCOD基準超過

平成28年度（1月時点）



公共用水域の水質BOD/COD適合状況（その1）

平成28年度（1月時点）

水域名 (河川名等)			調査地点	類型	基準値(75%値)		環 境 基準点	測定結果	環境基準
					BOD	COD		75%値	達成状況
信濃川	信濃川	中流	①庄瀬橋(※)	河川A	2mg/L以下	—	(※)	0.8	○
			②平成大橋(※)	河川A	2mg/L以下	—	(※)	1.3	○
		下流	③萬代橋	河川A	2mg/L以下	—	(※)	1.2	
			④信濃川河口	河川A	2mg/L以下	—	(※)	0.9	
	能代川		⑤結地先(※)	河川B	3mg/L以下	—	(※)	2.0	○
	小阿賀野川		⑥新瀬橋(※)	河川A	2mg/L以下	—	(※)	1.4	○
	中ノ口川	⑦両郡橋	河川A	2mg/L以下	—	(※)	1.1	○	
		⑧西信濃川大橋(※)	河川A	2mg/L以下	—	(※)	1.3		
	西川	上流	⑨西川橋(※)	河川A	2mg/L以下	—	(※)	1.1	○
			下流	⑩亀貝橋(※)	河川B	3mg/L以下	—	(※)	1.3
	通船川	⑪波切橋		河川B	3mg/L以下	—	(※)	1.8	
		⑫木戸閘門	河川D	8mg/L以下	—	(※)	0.9	○	
		⑬閘門東	河川D	8mg/L以下	—	(※)	2.8		
		⑭山ノ下橋(※)	河川D	8mg/L以下	—	(※)	2.4		
栗ノ木川	上流	⑮二本木地先	河川C	5mg/L以下	—	(※)	1.9	○	
		⑯石山橋(※)	河川C	5mg/L以下	—	(※)	1.4		
		⑰両新橋(※)	河川E	10mg/L以下	—	(※)	1.7	○	
		⑱閘門西	河川E	10mg/L以下	—	(※)	3.0		
関屋分水路		⑲堀割橋	—	—	—	—	1.5	—	

公共用水域の水質BOD/COD
適合状況（その2）

平成28年度(1月時点)

水域名 (河川名等)		調査地点	類型	基準値(75%値)		環 境 基準点	測定結果 75%値	環境基準 達成状況	
				BOD	COD				
阿賀野川	阿賀野川		②横雲橋(※)	河川A	2mg/L以下	—	(※) 0.7	○	
			②松浜橋				(※) 0.9		
	福島湯		②湯口橋(※)	河川B	3mg/L以下	—	(※) 1.6	○	
	新井郷川	上流	②豊新橋(※)	河川B	3mg/L以下	—	(※) 1.5	○	
		中流	②名目所橋上流(※)	河川B	3mg/L以下	—	(※) 1.8	○	
		下流	②大正橋(※)	河川C	5mg/L以下	—	(※) 1.7	○	
		②新井郷川河口				(※) 2.5			
新川	大通川		②大通橋(※)	河川C	5mg/L以下	—	(※) 2.5	○	
	新川			②横尾大橋(※)	河川C	5mg/L以下	—	(※) 1.9	○
		②往來橋				(※) 2.0			
湖沼	鳥屋野湯		③弁天橋(※)	湖沼B	—	5mg/L以下	(※) 4.6	○	
			③鳥屋野湯出口				(※) 6.6	○	
新潟 海域	新潟海域	甲	②新潟海域甲No. 1(※)	海域A	—	2mg/L以下	(※) 1.7	✕	
			③新潟海域甲No. 3(※)				(※) 1.7		
							③新潟海域甲No. 10		(※) 3.9
							③新潟海域甲No. 11(※)		(※) 4.5
	乙	③新潟海域乙No. 4(※)	海域A	—	2mg/L以下	(※) 2.0	✕		
		③新潟海域乙No. 6(※)				(※) 3.3			
	丙	③新潟海域丙No. 7(※)	海域B	—	3mg/L以下	(※) 2.6	○		
						③新潟海域東港No. 15(※)		(※) 4.5	
	新潟海域東港		③新潟海域東港No. 16	海域B	—	3mg/L以下	(※) 4.4	✕	
	弥彦・米山地先海域			④弥彦・米山地先海域No. 1	海域A	—	2mg/L以下	(※) 1.5	○
		④弥彦・米山地先海域No. 2(※)	(※) 1.8						
		④弥彦・米山地先海域No. 3	(※) 1.7						

環境放射能（その1）

● 空間放射線量率は通常の測定範囲内

平成28年度

調査項目	調査地点及び調査結果	
	調査地点	調査結果
空間放射線量率	中央区（自動測定）1 地点 区役所（月2回）8 地点 小学校（4校），中学校（4校） 8 地点 海水浴場 4 地点 計 21 地点	地上1mの高さにおける放射線量率 0.049 ~ 0.11 $\mu\text{Sv/h}$ (参考) ※通常の測定範囲 0.016 ~ 0.16 $\mu\text{Sv/h}$ 程度
	区役所 8 地点	積算放射線量 0.462 ~ 0.638 mSv/9ヵ月 (年換算 0.604 ~ 0.835 mSv/年) 平均積算放射線量率 1.66 ~ 2.29 $\mu\text{Sv/日}$ (0.069 ~ 0.095 $\mu\text{Sv/h}$)

環境放射能（その2）

● 河川底質・降下物でセシウム検出

平成28年度

調査項目	調査地点及び調査結果	
	調査地点	調査結果
河川底質	河川 9 地点 (能代川, 小阿賀野川, 中ノ口川, 栗ノ木川, 通船川, 西川, 新川, 新井郷川, 鳥屋野湯)	ヨウ素 131 検出しない セシウム134 検出しない セシウム137 検出しない~20 Bq/kg (小阿賀野川, 栗ノ木川, 通船川, 西川で検出)
降下物	白山浦庁舎屋上 1地点	(各月の結果) ヨウ素 131 検出しない セシウム134 検出しない セシウム137 検出しない~0.086 Bq/m ² (H28.5月が最大)
河川水・海水 地下水 土壌 大気浮遊じん 指標生物	河川, 海域, 海水浴場 15地点 井戸 4地点 学校・区役所 16地点 白山浦庁舎屋上 1地点 西区(赤塚, 五十嵐) 2地点	ヨウ素131, セシウム134, 137 検出しない

騒音・振動調査の体系

平成28年度

調査項目	調査地点
一般地域における騒音 道路に面する地域における騒音	(1) 一般地域(道路に面する地域以外の地域) 調査地点: A類型 10地点 B類型 13地点 C類型 9地点 (注)1 Aを当てはめる地域は, 専ら住居の用に供される地域とする。 2 Bを当てはめる地域は, 主として住居の用に供される地域とする。 3 Cを当てはめる地域は, 相当数の住居と併せて商業, 工業等の用に供される地域とする。 (2) 道路に面する地域 調査地点: 高速自動車道 3地点 一般国道 11地点 県道 17地点
新幹線鉄道騒音・振動	調査地点: 沿線地域 6地点
航空機騒音	調査地点: 船江地区 8地点 松浜地区 7地点

環境基準の達成状況（一般地域）

平成28年度環境基準の達成状況

地域の類型 (地点数)	測定値 (デシベル)		環境基準 (デシベル)		環境基準の 達成状況
	昼間	夜間	昼間	夜間	
A類型(10地点)	40～51	34～44	55	45	達成
B類型(13地点)	43～54	35～43	55	45	達成
C類型(9地点)	45～53	39～49	60	50	達成

- (注) 1 Aを当てはめる地域は、専ら住居の用に供される地域とする。
 2 Bを当てはめる地域は、主として住居の用に供される地域とする。
 3 Cを当てはめる地域は、相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域とする。

環境基準の達成状況（道路に面する地域）

平成27年度環境基準の達成率・戸数

区分	昼夜とも 基準値以下		昼のみ 基準値以下		夜のみ 基準値以下		昼夜とも 基準値超過	
	戸数	割合 (%)	戸数	割合 (%)	戸数	割合 (%)	戸数	割合 (%)
全戸数 (51,393戸)	50,940	99.1	96	0.2	191	0.4	166	0.3
近接空間 (19,870戸)	19,532	98.3	68	0.3	146	0.7	124	0.6
非近接空間 (31,523戸)	31,408	99.6	28	0.1	45	0.1	42	0.1

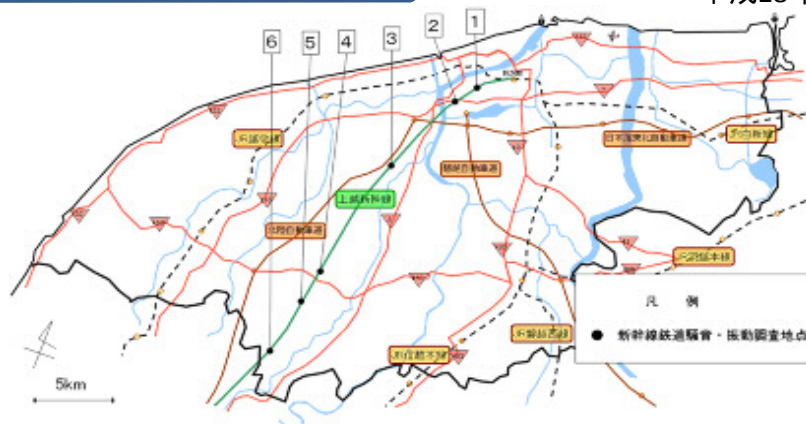
高速道路騒音調査

平成28年度

高速道路名	測定値 (デシベル)		環境基準 (デシベル)		環境基準の 達成状況
	昼間	夜間	昼間	夜間	
日本海東北自動車道 (北区葛塚)	56	50	70	65	達成
北陸自動車道 (西蒲区国見)	57	53	65	60	達成
磐越自動車道 (江南区酒屋町)	54	53	65	60	達成

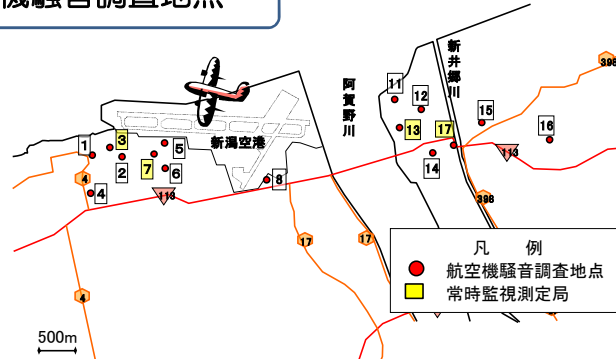
新幹線鉄道騒音調査地点

平成28年度



調査地点 (新潟県から)	1上近江 (3km)	2大島 (5km)	3鳥原 (9km)	4井随 (19km)	5釣寄 (22km)	6中之口 (25km)	環境基準
環境基準 達成状況	70 達成	72 未達成	73 未達成	71 未達成	72 未達成	71 未達成	70デシベル (I 類型)

航空機騒音調査地点



短期調査(平成27年度)

(Ⅰ類型:Lden57dB以下, Ⅱ類型:Lden62dB以下)

調査地点	船江地区								松浜地区						
	No1	No2	No3	No4	No5	No6	No7	No8	No11	No12	No13	No14	No15	No16	No17
地域類型	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ
環境基準達成状況	48 達成	48 達成	53 達成	44 達成	55 達成	48 達成	49 達成	54 達成	45 達成	50 達成	58 未達成	47 達成	54 達成	52 達成	52 達成